



## ●インフォメーション

9月18日(火曜)の午前中と9月24日(秋分の日)午前午後、病院を開けます。

当院は火曜日が定休日になるため、月曜日が祝日の際には3連休となり、皆様方には大変ご迷惑をかけておりました。そういう事態をなるべく避けるために、今月の9月18日火曜日の休診日の午前中と24日秋分の日には診療することにしました。急な体調不良の際にはご利用ください。

インターネット予約は可能です。予約が取れない場合も空いた時間で対応可能と思います。ワクチンや検診はできません。19日火曜日は門前薬局などが開いていますので院外処方ですが、24日秋分の日には門前薬局などがお休みのため、数日間の院内処方となります(もしくは子ども病院や日赤の門前薬局さんへの院外処方)。24日はぜんそく予防薬やアレルギー舌下療法などの長期的な処方ではできません。

いずれの日もスタッフはお休みとなりますので、負荷試験や静脈採血検査、輸液療法や外科的な処置は難しいです。

	9/17(月祝)	9/18(火)	9/19(水)	9/20(木)	9/21(金)	9/22(土)	9/23(日)
午前	×	通常	通常	通常	通常	通常	×
午後	×	×	通常	通常	通常	通常	×
	9/24(月祝)	9/25(火)	9/26(水)	9/27(木)	9/28(金)	9/29(土)	9/30(日)
午前	通常	×	通常	通常	通常	通常	×
午後	17:00 まで	×	通常	通常	通常	通常	×

## ●編集後記

夏の甲子園、終わりました。残念ながら九州代表はいずれも早い段階で消えてしまい、悔しい夏となりました。野球が終わったとたん、暑い日の中にも小さな秋が見え隠れするようになりました。自分にとっての小さな秋は、コンビニのおでん。好物のおでんをついつい頼みすぎ、飲みすぎ、飲みすぎで、どこまで肥えれば止まるのか心配です。

受付時間	月	火	水	木	金	土
9時~12時	●	—	●	●	●	●
14時~18時	●	—	●	●	●	●

### 休診日/火曜・日祝日

9時より早く来られた方も、診療準備完了次第、順次診療しています。また夕方6時ぎりぎりまで受付しております。お気軽に相談ください。

インターネット予約が可能です

かみぞのキッズ よやく | Q

http://kamizono-kids.com

〒870-0822

大分県大分市大道町4-5-27 第5ブンゴヤビル2F



ホームページ  
QRコードは  
こちら



WEB予約  
QRコードは  
こちら

TEL:097-529-8833

children's clinic of Kamizono



# かみぞのキッズクリニック

## シックキッズニュース

2018年9月号(No.16)

うだるような7月8月がやっと終わり、といっても激しい残暑が…。しかし確実に季節は運動会や遠足などの行楽のシーズンへと向かうものと思います。こんな折、首都圏を中心に風疹(ふうしん)が流行しているという気になる報道がありました。8月半ばの全国の届け出では184人とすでに前年と前前年の届け出数の合計を超えたそうです。そこで今回は風疹の話にフォーカスしました。それと妊婦さんたちがお母さんになる前に小児科医を受診して、育児などの保健指導を受ける、いわゆる“ペリネイタル・ビジット”という事業についてもフォーカスしてみます。

## ●今月のフォーカス1 風疹(ふうしん)の話

今年には沖縄でははしかの発生、西日本大豪雨や猛暑の異常気象で沸きました。しかし人知れず5年ぶりに風疹の発生が多い年となりそうです。風疹は風疹ウイルスに感染して起こる感染症です。昔は初夏に流行していました。私自身も1977年の小学5年生として登校したその日に、熱が出てぶつぶつが全身に出て、新しい担任の先生に“風疹”と診断していただき、そのまま解熱するまで3日間休まされたのでよく覚えています。また1992年の流行の時はちょうど医者になって2年目。久留米の聖マリア病院という鬼のように一日中働かされる病院の夜間当直医として時間外診療させていただいた際に大量の急性疾患の子どもさんをみせていただきましたが、時々風疹が来ていました。はしかほど重症ではないし、発疹もばらばらではっきりしない、熱も微妙です。目が赤いか？首や耳の後ろのリンパ節が腫れていないか？とか注意しながら見逃さないようにしていました。今でも口の中を見る時に頬っぺたの裏をみたり、首のリンパ節を触る癖があるのは、そういう症状は麻疹や風疹のごく初期に出現し始める事が多く、ここのサインを見逃してはしかや風疹を見逃したら、後でみた医者から馬鹿にされていたので…我々世代や先輩のお医者さんたちは癖になっているみたいです。



### 風疹の症状・潜伏期間・感染力は？

前置きが長くなりましたが、風疹の症状は発熱(3日間の熱なので別名“三日はしか”)、発疹、リンパ節腫脹、眼球結膜充血が4徴候ですが、節々がいたい、とか筋肉痛を比較的訴えられます。夏風邪とかも発疹がでたり結膜炎も多いし、田舎では患者さんもいなくなったし、その目で見ないと誤診してしまいます。また感染したのに症状が出ない無症候性の風疹が30%か

ら50%と多く、感染の蔓延の原因になりえます。ウイルスに感染して発症するまでの潜伏期間が長く、感染してから2~3週間たってようやく発症します。忘れたころに、というパターンで流行の長期化に寄与しています。感染力事態は、はしかや水ぼうそうほどはありません(もしかしたら不顕性感染なのかも)。くしゃみや咳で飛んできた唾しぶきや、唾のついた手などで粘膜を接触を介して感染します。感染力は熱が出る3、4日前から強くなり、3日間の熱が下がるまでの約1週間です。熱が出る前に出てくるリンパ節のぐりぐりをみつけ、いかに早く疑いの患者さんをピックアップして、疑い患者の検体から風疹ウイルスを遺伝子検査で検出して確定診断することが理想です。

### 先天性風疹症候群の話

風疹自体は、血小板減少性紫斑病などを合併してこなければ、風邪みたいなものなのです。ところが、この一見軽い風疹が、日本で注目を集めることになるのです。九大の植田浩司前教授らが本土返還前の沖縄で1965年から4年間、離島検診に便乗して行った風疹の調査で、最終的には408人もの赤ちゃんが先天性風疹症候群に罹患していることが判明、社会問題化したのです。前回の風疹の流行の2013~2014年では1万4千人の風疹患者が発生しましたが、先天性風疹症候群の赤ちゃんが45人報告されました。

先天性風疹症候群とは、妊娠6か月くらい前に妊



図1 先天性風疹症候群の分布(1965~1969年)  
(九州大学先天性風疹研究班、鹿児島県立総合医療センター  
(鹿児島大学山田教授、厚生省風疹ウイルス研究班(鹿児島県  
産科検診班)の資料による)

中面につづきます



婦が風疹になったときに、新生児に障害をきたす、というものです。**心奇形、目の白内障、難聴**の3つが有名です。心臓の奇形や白内障は妊娠3ヶ月くらいまでにしかおきにくいのですが、一番多い難聴は妊娠6ヶ月くらいまで起きる可能性があります。妊娠6か月を過ぎてからであれば、先天性風疹症候群の発生率は激減しますので、**妊娠後期に風疹に罹った場合はあまり心配はいりません。**

**風疹ワクチンの変遷と世代別・性別の風疹の免疫の状況は？**

最近の風疹患者は、実は30歳～50歳代の男性が中心です。平成25年度(2013年)の国の調査では、20歳から40歳代の男性の葉12.3%が風疹の免疫(抗体)を持っていませんでした。この12.3%という数字はほかの年代や女性よりも高い割合です。それはワクチン制度の変遷が影響しています。以下に少々詳しく我が国の風疹ワクチン制度の変遷を列記します。



- 1977年4月から**中学生女子のみに集団接種**が始まったので、だいたい39歳から56歳(1962年から1979年生まれ)の女性はほぼ全員ワクチン接種を1回はしています。39歳以上の男子はこどものころに風疹に罹っていない場合は免疫がありません。
- 1988年から1993年までは麻疹の定期予防接種のワクチンとして、麻疹・風疹・おたふくかぜ三種混合ワクチン(MMRワクチン)の選択も可能になりました。この時期にMMRワクチンを希望した男子(現在27歳くらいから32歳くらいまでの男子)には風疹のワクチンが接種可能となりました。
- 1994年から、男女ともに1歳から7歳半まで、および中学生男女生徒に個別接種で風しんの単価ワクチン接種が始まりました。個別接種だったので接種率があまり高くなく、1979年4月から1987年10月1日生まれまでのだいたい31歳から39歳まで(つまりざっと30歳代)の男女はともに風疹に対する免疫を持っていない人が多いと考えられます。そのためこの世代、つまり1979年4月～1987年生まれ(現30歳代)の男女には2001年から2003年9月まで経過措置として2度目の個別接種を行っています。
- 2006年からは、現行通り満1歳代(第1期)と就学前年(第2期)の男女に麻疹風疹混合ワクチン(MRワクチン)が開始されました。だいたい現在13歳以上のこどもさんには2回接種法で風疹と麻疹の免疫はあると考えられます。
- 2006年から始まった2回接種法で漏れてしまって1回しか接種していない中学生1年生と高校生3年生の男女に対して、2008年から2013年まで2回目のMRワクチンの個別接種を公費で助成されました。よって1990年以後に生まれた男女(だいたい28歳までの男女)は、2回麻疹・風疹ワクチンをしている人が多く、風疹と麻疹の免疫は持っている人が多いと思われます。

以上まとめると、1990年4月2日以降に生まれた人(だいたい28歳までの男女)は2回MRワクチンを受ける機会がありましたが、それより年齢が上の男女は受けていても1回。そして1979年4月1日以前に生まれた男性(だいたい39歳以上の男性)は1回もワクチンを受ける機会がなかったのです。一方、1962年以前に生まれた人たちは、つまり60歳代以上の人は、こどものころに約5年周期で流行する風疹に自然にかかっている人が大部分なので、免疫があります。だから30歳代から50歳代までの男性には風疹の免疫がなく、そういうわけで現在の風疹の流行の中心はこの世代の男性なのです。

**妊婦に風疹の免疫がなければ、パートナーはワクチンを！**

晩婚化もあり、30歳代・40歳代はまだまだ妊娠、出産世代です。また50歳代で早くもおじいさんになる方もいらっしゃるかもしれませ

ん。風疹の免疫のない男性は、相手の女性が妊娠したら心配ですよね。妊婦には妊婦健診時に風疹の抗体価検査がルーチンで組み込まれていることが多いです。けどパートナーには検査しませんよね。

**風疹の抗体価検査とワクチンが公費で助成されているのをご存知ですか？**大分市の場合ですが、以下の要綱で風疹検査とワクチン接種の助成を行っています。

**●風疹の検査**

- ・妊娠を希望する女性
  - ・妊娠を希望する女性の配偶者などの同居者
  - ・抗体価が低いことが判明した妊婦の配偶者などの同居者
- ただし、抗体検査を実施した日に大分市の住民であることが大前提で、かつ過去に風疹の検査を受けたことがある方、風疹の予防接種をしたことがある方、検査で風疹の確定診断を受けた風疹既往歴のある方を除きます。

※配偶者は婚姻届けを出している人だけでなく、届け出をしていなくてもいわゆる事実婚でもいいです。同居者とは生活空間を同一にする頻度が高い方です。

・検査費用は全額助成されます

**●風疹の予防接種**

- ・風疹抗体価検査により抗体価が十分でないと判断された妊娠を希望する女性とその配偶者。
- ・ただし、風疹ワクチンは生ワクチンなので、**妊娠中はワクチンを受けられません。**配偶者にワクチンをするようにしましょう。
- ・配偶者は婚姻届けを提出している方、もしくはいわゆる事実婚の方を含みます。配偶者の場合、接種日に妊婦が大分市の住民であることが必要です。

実施施設は、大分市内の実施医療機関となります。大分市のホームページ、「風しんの抗体検査および予防接種実施医療機関一覧」で検索してください。ちなみに**当院も抗体検査および予防接種の実施医療機関**です。

**助成額**

- 抗体検査は全額助成されます。つまり**無料**となります。
- 予防接種の助成額の上限は、麻疹風疹混合ワクチン(MRワクチン)の場合5000円、風疹単独ワクチンの場合3000円です。当院のような市内の協力医療機関では、接種費用から、前記の助成額を差し引いた額を医療機関に支払います。ちなみに当院ではMRワクチンで接種いたしますので、接種費用税込込み10670円から5000円を差し引いた**5670円で接種可能**です。

30歳から50歳代の男性で、**首都圏に出張する機会があるかもしれない方**は特に、妊婦さんやおなかの赤ちゃんたちが風疹になって困ったことにならないように、この機会に抗体価検査やワクチン接種を検討しましょう。

生年月日など	ワクチン接種の状況
1962年4月1日以前生まれの男女	定期接種は行われていないが、大半の人が自然に風疹に感染することで免疫がある
1962年4月2日～1979年4月1日生まれの男女	中学生時に女性のみを対象として、学校で集団接種が行われていたが、男性は定期接種が行われていないので、免疫がない人が多い
1979年4月2日～1987年10月1日生まれの男女	男女共に、個別に医療機関で予防接種を受けていたため、接種率が低く、免疫がない人が多い
1987年10月2日～1990年4月1日生まれの男女	男女共に出生時に予防接種を受ける対象となり接種率は比較的高いが、接種を受けず免疫がない人もいる

※厚生労働省「風しんの感染予防の普及・啓発事業」の資料を一部改定

**●今月のフォーカス2 ペリネイタルビジットについて**

ペリネイタルビジットとは、お産前、あるいはお産後早めに、かかりつけの小児科医を作っておいて、お産後の育児不安を少しでも早く解決しようという制度です。保険診療ではなく、大分県や県医師会、県産婦人科医会、県小児科医会が主宰している制度ですので、料金はかかりません。



お産後、産婦人科医院を退院したら、いろいろな心配事が出てきます。例えば・・・赤ちゃんの湿疹、夜泣き、熱があるけどどうしたらいいの、乳児検診やワクチンはどうしたらいいんだろう、こどもの急な体調不良の時はどうするの、アレルギーにならないかな、信頼できる小児科の医者はいるのかな、などなどです。お産の前から、信頼できる小児科医と顔なじみになっておくと、何かあった時やわからないことがあった時には気軽に相談できますね。

大分県のペリネイタルビジットの事業では、実際どのようにしているのでしょうか。

- 1.産科医あるいは参加施設のスタッフにペリネイタルビジットを受けてみたいと申し込むご相談ください。
  - 2.産科医は登録されている小児科医への紹介状を用意します。
  - 3.あらかじめ、紹介された受診予定の小児科へ電話連絡をして、「ペリネイタル・ビジットを希望します」と、妊婦さん・おかあさんご自身で日時を予約してください。
  - 4.予約した日時に、小児科を訪問してください。
- なお、**料金は無料**です。

**アレルギー専門医の立場として、ペリネイタル・ビジットを受けられることを強くお勧めいたします。**



近年、こどものアレルギーの問題がクローズアップしており、色々な人がいろいろな説を唱えて情報が錯綜しており、例えば、「妊娠中から自分が食べる物に気を付けないといけないの?」、「離乳食は遅らせたほうがいいのかいわれたけど、それほんと?」、「アレルギーのものも少しは食べてたほうがいいのかいわれたんだけど、それほんと?」…なにが正しくて何がおかしいか混乱されておられる方も多いのではないのでしょうか? 実際皆様方のアレルギーに対する関心は高く、一般診療の中でもアレルギーの話題が出ることも多いのですが、なかなか十分な時間が取れずに十分に説明しきれなくて不消化気味となることが多く、悩みの種でした。しかしこのペリネイタル・ビジットを利用すれば、少なくとも当院では時間を十分に割いて納得いくまでご説明できます。この際ゆっくりアレルギーのことについてご相談されることをお勧めいたします。どんな些細なことでも責任をもってお答えします。

